

福知山市新文化ホール基本構想 概要版(案)

第1章 構想策定の背景

厚生会館は開館から60年がたち、施設の老朽化や耐震性の不足など様々な課題を抱えています。また、整備された昭和30年代から平成、令和と時代を経るなかで、我が国や福知山市を取り巻く社会経済情勢や人々の意識は変化し、文化芸術や劇場に期待される役割も時代とともに拡大してきましたが、現在の施設はこうした状況に対応できていません。

この基本構想は、新文化ホールが新たな福知山市の魅力や振興の拠点として、また市民の文化活動の核となり、市民が「幸せを生きる」まちづくりに寄与するための、基本理念や整備の方針等を定めるものです。

第2章 新文化ホールを取り巻く状況

1 文化芸術関連政策・計画

(1) 国の文化政策の状況

国の文化政策においては、文化芸術そのものの振興にとどまらず、関連分野における施策との連携が求められ、劇場は「新しい広場」「世界への窓」となることが望まれています。

平成24(2012)年	劇場、音楽堂等の活性化に関する法律
平成27(2015)年	文化芸術の振興に関する基本的な方針(第4次)
平成29(2017)年	文化芸術基本法

(2) 京都府の文化政策の状況

国の文化政策の流れを受けて、文化の保存・継承から発展、創造、活用まで総合的に推進することを目指しています。

平成30(2018)年	京都府文化力による未来づくり条例
平成31(2019)年	京都府文化力による未来づくり基本計画
令和5(2023)年	文化庁移転(予定)

(3) 福知山市の文化政策の状況

1) まちづくり構想 福知山(令和4(2022)年)
市の将来像:『市民が「幸せを生きる」まちへ』

2) 福知山市文化振興基本方針(平成31(2019)年)
知る・見る・感じる機会を提供し、それらに付加価値をつけた活用により、新たな魅力を創出することが重要であり、これらの活動を通して地域の活性化、地域への誇りや愛着を育み、地方創成に取組の核となることを目指します。

(4) ポスト「新型コロナウイルス時代」における劇場施設の新たな考え方

新型コロナウイルスの感染拡大は、ネット配信等により多くの人が事業の成果を享受できる機会をもたらし、施設の大きさよりも効果の広がりや評価する考え方が生まれています。文化芸術活動は、創造し継続していくことが重要であり、環境に配慮した持続可能な施設づくりも求められます。

2 厚生会館の現状と課題

	厚生会館
建設	昭和37(1962)年
施設機能	大ホール(1,002席) 楽屋(2室)/控室(2室) 中会場(1室)/小会場(2室) 和室(1室)
利用状況平成30年度	<大ホール> 稼働率:35.3% 利用者数:49,706人 (全施設)54,760人 ・本番利用が半数弱。 ・本番の利用人数は「0~200」名の利用が最も多く、満席に近い利用は少ない。 ・舞台芸術系から展示、フェスティバル形式の催事、大会・会議まで幅広いジャンルでの利用がある。
課題	・駐車場が不足。 ・1階客席がフラットで舞台が見にくく、椅子を並べることが大変。 ・専門スタッフがいない。 ・洋式トイレの不足。 ・音響、照明等の機材の不足。 ・Wi-Fiがない。

3 福知山市の文化的環境

(1) 福知山市内および周辺市町の文化交流施設

1) 市内類似施設

厚生会館のほかに5つホール機能を有する施設があります。いずれも300席程度の規模です。

ハビネスふくちやま	庁舎併設のホールとして、市関連他各種発表のための施設
市民交流プラザ	福知山駅前の市民交流活動の拠点施設
夜久野ふれあいプラザ	夜久野地域を中心とした市民の交流活動拠点
大江町総合会館	大江地域を中心とした市民の交流活動拠点
三和荘多目的ホール	三和地域を中心とした市民の交流活動拠点

2) 周辺市町における文化施設の設置状況

1,000席以上は2施設で、大半が500~800席程度の中規模ホールです。

京都府中丹文化会館	京都府中部の文化の殿堂施設
舞鶴市総合文化会館	舞鶴市の文化芸術の拠点施設
丹波市ライブピアいちじま	アーティストの公演や市民参加型フェスを行う芸術文化振興拠点
丹波市春日文化ホール	市庁舎に隣接する多目的ホール
兵庫県立丹波の森公苑ホール	豊かな自然の中にある多目的ホール
丹波篠山市田園交響ホール	多目的にも利用可能な音楽主目的ホール
丹波篠山市四季の森生涯学習センター	市民の生涯学習支援と、地域文化創造の拠点施設
多可町文化会館ベルディーホール	多目的に使える平土間利用可能なホール
朝来市ジュビターホール	朝来市の文化芸術の拠点施設
養父市民交流広場	新しい但馬地域の文化拠点
豊岡市民会館	豊岡地域の鑑賞事業の拠点施設



(2) 福知山市内における文化活動等の状況

1) 文化活動団体の活動状況

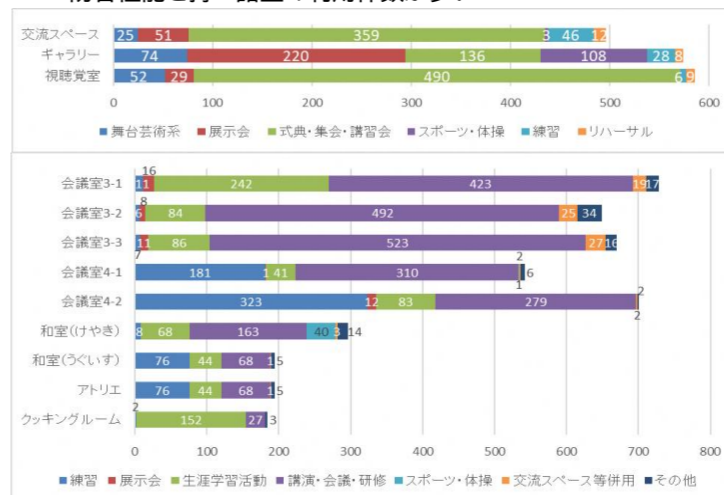
福知山市内では、音楽や演劇・バレエ等の舞台芸術、日本舞踊や琴などの伝統芸能、美術創作活動、地域の歴史研究等、様々なジャンルの文化活動が行われています。多くの団体が日常的に練習や稽古を行い、その成果を定期的に発表しています。日常活動の場所としては、市民交流プラザや地域公民館等がよく利用されており、発表の場としては、厚生会館、市民交流プラザのほか夜久野ふれあいプラザや周辺市町のホールなどが利用されています。

2) 市民交流プラザの開館前後の活動状況の変化

平成26年の開館以降、市民交流プラザは多くの市民に利用されています。厚生会館の諸室の利用件数は減少しましたが、減少分を大きく上回る利用件数がカウントされており、市内の文化活動が活発化していることを示しています。

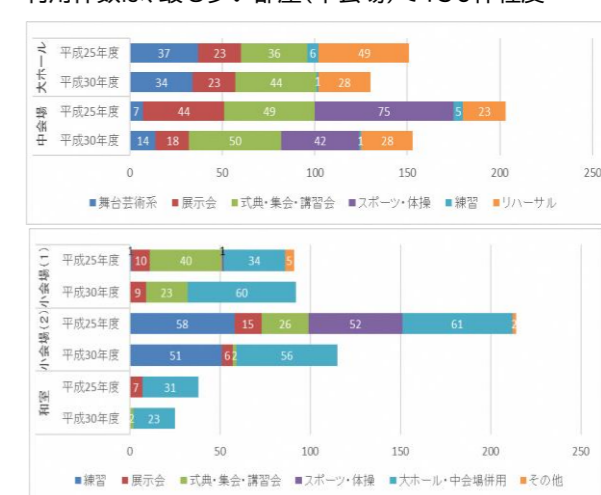
【市民交流プラザの利用状況(令和元年度)】

多くの諸室の利用件数は年間500件を超える
防音性能を持つ諸室の利用件数が多い



【市民交流プラザ開館前後の厚生会館の利用状況】

市民交流プラザの開館後、すべての諸室で利用件数が減少
利用件数は、最も多い部屋(中会場)で150件程度



3) 今後の活動に求められること

市民交流プラザは部屋によっては利用者が集中し予約が取りづらいため、練習活動の場が不足している状況にあります。文化活動を活性化していくためには、こうした市民のための練習の場や様々な生涯学習活動の場の整備が求められます。

4 市民意見の整理

市内の文化活動団体へのヒアリング、ワークショップ、Webアンケートを実施しました。文化振興基本方針策定時に実施したアンケートの結果も併せた、新文化ホールに対する主な市民意見は下記のとおりです。

関係団体等ヒアリング

実施時期 2022年8月8、9、29、30日
実施場所 厚生会館中会場
参加団体 文化系活動団体、学校、子育て活動団体、障害者支援団体、商工観光関係団体、楽器店、地域・高齢者団体、照明技術者 (計55団体)

市民ワークショップ

第1回 2022年8月29日
テーマ「福知山市や現施設の良いところ・改善した方が良いところ」
第2回 令和4(2022)9月8日
テーマ「年間利用計画をシミュレーションし、新施設の将来像を考えよう」

Webアンケート

実施時期 2022年8月17日
~9月30日
実施方法 市HP、市LINE、市Twitter、設問表配布
回答数 118

項目	課題・求められる役割・機能
市の文化芸術に求められていること	・文化施設の充実 ・文化芸術の鑑賞機会の充実 ・文化芸術が観光やまちづくりに活用され多くの人が訪れるまち ・子どもが文化芸術に親しむ機会の充実 ・子どもが地域の文化や伝統を学ぶ機会の充実
求められる活動	・音楽、演劇、ダンス、伝統芸能等の舞台芸術 ・フェスティバル形式の催事 ・入学式、卒業式、同窓会、文化祭等の学校利用 ・まちと連携して行う催事 ・写真、絵画、書道等の展示 ・市民参加型の催事 ・市既存イベントと連携して行う催事 ・地域で交流を図る催事
求められる役割	・鑑賞・発表から活動発表、日常的な練習まで可能な場 ・音楽を始めとした各種文化芸術活動が可能な環境 ・文化振興の拠点 ・市民目線の運営 ・日常的に人があつまり、にぎわう ・多世代での交流 ・福知山らしさ ・市内学校との連携拠点
機能	【ホール】 ・客席数 : 現在と同規模程度、600~800席 ・ホール機能 : 展示も可能な多目的に、音楽専用 ・段床客席 ・搬入口、動線の確保 【その他】 ・バリアフリーの完備 ・十分な数の駐車場 ・立地: 現地、三段池公園 ・舞台設備の充実

第3章 基本理念

(1) 基本理念

人をつなぐ、活動をつなぐ、時をつなぐ ～新たな福知山市の魅力を築く文化振興の拠点～

新文化ホールは、福知山市における芸術文化、歴史文化、その他文化的な価値を有するあらゆる「文化」の振興を推進する拠点として、また福知山市の未来を見据え、次世代を担う子どもたちをはじめ市民の夢や希望の実現を目指します。

芸術鑑賞の機会の充実、文化に触れるきっかけづくりや様々な活動支援の提供、文化活動を通じた多世代での交流の活性化、日常的に憩える場づくり等、文化を振興するための環境を整備するとともに、福知山市のさまざまな歴史資源や文化資

源を活かした新たな活動の創造等、魅力を築く拠点づくりを進めます。

福知山市、さらに北近畿エリアを視野に広域で人と人をつなぎ、教育やまちづくり等、多様な分野をつなぎ、過去と現在・未来をつなぐ等、様々な「つなぎ」を生み出すことによって、お互いを刺激し、福知山市の新しい文化、ひいては福知山市の未来を創造する拠点となることを目指します。

(2) 基本的な役割

- 1) 鑑賞・体験**
「知る・見る・感じる」機会の充実から新たな活動を「つくり・つなぐ」文化振興の拠点
新文化ホールが鑑賞・体験・創造活動の場となるよう、良質な文化芸術の鑑賞から、気軽に参加できる講座やワークショップ、市民が舞台上に立つ作品づくり等、文化芸術に触れる様々な機会を提供します。また、市民の活動に対して、情報や交流機会の提供等を積極的に行い、日常的な練習や成果発表を支援します。
鑑賞・体験から主体的な創造活動まで一貫して行える環境を整え、福知山市の文化振興を推進します。
- 2) 人材育成**
次世代に活動を「つなぐ」コーディネーターの配置
これからの福知山市の文化振興の担い手となる若い世代や、子どもたちの活動を支援するために、本市の文化活動を牽引する人材の育成が不可欠です。
そのため、専門家と協働した講座を実施するとともに、活動のアドバイスや、人と人、人と活動等をつなぐ役割を担うコーディネーターの配置を検討します。
- 3) 交流**
市民の憩いの場の創出による、出会いや交流の促進
市民がいつでも自由に、気軽に、立ち寄り、日常的ににぎわい憩える居場所とします。
あわせて、訪れた市民が文化芸術に触れやすい空間や事業の提供に取り組み、文化芸術との出会いや文化芸術を通じた交流を深める場とします。
- 4) 創造**
福知山市の地域資源を活かした新たな魅力を築く
福知山市に息づく豊富な歴史資源や地域の伝統文化の活用、分野を超えた連携等を行うことにより、福知山市独自の新たな文化活動や魅力を築きます。
これらの地域資源の保存・継承・発展・新しい発見により、文化による地域の活性化を推進します。
- 5) 安心・安全**
「幸せを生きる」安心・安全なまちづくりへの寄与
観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等、派生する分野とも連携し、市民が「幸せを生きる」まちづくりに寄与します。
また、災害対策等を十分に考慮し、安心・安全な施設整備を行います。

第4章 新文化ホールの整備方針

(1) 施設機能及び構成

1) ホール機能

優れた音響性能を備え、音楽をはじめとした様々な舞台芸術等に対応する多機能ホールとします。

- 新型コロナウイルスの流行による新しい価値観や本市の将来人口推計等をふまえるととも、これまでの厚生会館の利用状況や施設利用団体へのヒアリング結果から、収容人数は、500人～800人程度を想定。
- 客席は固定席とするか、平土間ホールとするか、基本計画において検討。
- 鑑賞に適した座り心地の良い座席とするとともに、障害のある方や高齢者の利用に配慮。
- 多様な演目に対応可能な舞台サイズと設備を備える。
- 楽屋や搬入等、バックヤードを充実させ、利用者が使いやすい施設。

2) 創造活動機能

市民の日常的な創造・発表活動を支える機能として設けます。

- 日常的な練習の場として楽器演奏やダンス等、音の出る活動に対応した防音性能を備えたスペース、美術活動に対応し、作品を展示することができるスペース、その他研修や会議等に対応するスペース等の配置を検討。
- ホールの利用者が舞台と同規模の広さの空間でリハーサルを行ったり、練習の成果を披露する小規模な発表に対応できるスペースを検討。
- これらの機能については、市内の他公共施設等との機能分担を考慮しながら配置する。

(2) 施設の規模

施設全体、ホール、諸室の配置・室数等、具体的な施設規模については、建設地とあわせて基本計画において検討します。諸室や空間は、さまざまな使い方に対応できる「多機能」なものとすることで、稼働率を高めるとともに、多様な市民ニーズに対応できることを目指します。

(3) 施設整備における配慮事項

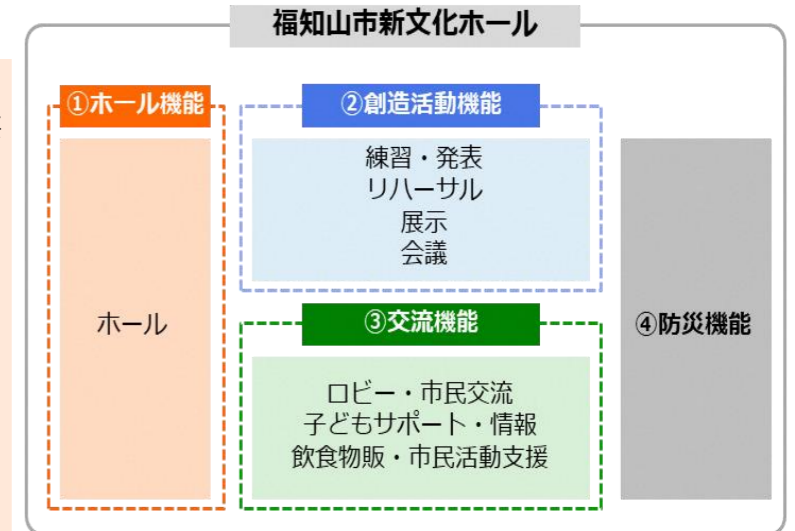
今後の施設整備においては、右表の内容に留意しながら検討します。

安全性	地震や水害等の自然災害に対する強度、避難所機能 等
利便性、快適性	ユニバーサルデザイン、バリアフリー、ICTの活用 等
経済性、効率性	建設費、維持管理費の抑制 等
環境共生	ゼロエネルギー、再生可能エネルギー等の活用 等
まちづくり	まちの資源との連携による地域の魅力向上 等

(4) 建設地

建設地の選定にあたっては、新施設が果たすべき役割や機能・構成等をふまえるととも、法規制や行政計画、公共交通機関や道路等のアクセス条件をはじめ、様々な観点等から検討します。

新たに建設地を確保するためには相応の時間を要することになり、事業費の増加も見込まれるため、市所有地を活用することを想定します。



3) 交流機能

誰もが気軽に訪れ、施設に賑わいをもたらす機能として設けます。次のようなスペースの配置を検討します。

- 明るいロビーや市民の憩いの場となる交流スペース
 - 子どもと親子がくつろげるスペース
 - 市の文化情報に触れることができるスペース
 - 飲食や物販のためのスペース
 - 自由に使えるベンチやテーブル
 - 様々な活動をする市民をサポートするためのスペース
- エリア全体にインターネット環境(Wi-Fi)を整備します。

4) 防災機能

市民や利用者の安心安全のため、防災機能を備えます。

第5章 管理運営の考え方

(1) 管理運営の基本的な考え方

1) 芸術文化と市民を「つなぐ」ための多様な鑑賞機会、体験機会の提供

文化振興の基盤となる環境づくりや持続的に活動が可能な仕組みを作るため、専門的な人材の配置等を含めた人員体制を検討し、鑑賞と体験機会を提供します。

2) 若い世代が中心となって人と人を「つなぐ」懸け橋となるための市民参加の推進

地域の若い世代が活躍できるよう、アウトリーチやワークショップ等若い世代が参加しやすい事業に取り組み、また、事業の企画段階から積極的な市民参加・参画を進めます。
市民の主体的な活動につながるよう利用者間の交流を促進します。

3) 過去・現在・未来へと続く「つながり」のきっかけをつくるための、日常的に居心地の良い空間づくり

特別なイベントがなくても、誰もが気軽に施設を訪れ、多世代で日常的に憩える空間づくりに努めます。

4) 福知山市の豊かな歴史資源と文化資源を「つないで」生まれる独自の文化づくり

福知山市の地域資源の活用や連携によって独自の文化づくりや新たな魅力を創造していくため、福知山市の人材を含む資源の掘り起こしを行い、それらを有機的に結びつけることで、新たな作品や活動づくりを目指します。

5) 文化の力を活かして文化と他分野を「つなぎ」、まちを活性化する連携事業の推進

市内の様々な要素や他分野等と積極的に連携することによって、新文化ホールでの活動・にぎわいが施設内にとどまらず、まちへと波及し、まち全体の活性化につなげます。